

平成29年度第2回

札幌市市民活動サポートセンター運営協議会

会議録【概要版】

日時：平成30年1月25日（木）午後7時開会  
場所：札幌エルプラザ公共4施設 2階 会議室3・4

## 1. 開 会

○事務局（小平指導員）

本日は、お忙しい中をご出席いただきまして、ありがとうございます。

これより、平成29年度第2回札幌市市民活動サポートセンター運営協議会を開催いたします。

本日の全体司会を担当いたします札幌市市民活動サポートセンターの小平でございます。

本日、高橋委員からは所用により欠席との連絡をいただいております。

## 2. 議 事

○事務局（小平指導員） それでは、議事に入ります。

ここからは、運営協議会設置要綱第6条に基づき、指定管理者である札幌エルプラザ公共4施設館長の寺田が進行させていただきます。よろしくお願いたします。

○寺田座長 それでは、平成29年度第2回の運営協議会の議事に入らせていただきます。

次第に沿って会議を進めてまいります。本日は、三つの議題がございます。

一つ目に、平成29年度施設利用状況及び事業実施状況の中間報告ということで、まだ年度が終わっておりませんので、これまでの状況について報告させていただきます。

二つ目は、平成30年度事業計画ということで、次期指定管理の事業計画の案についてお話しさせていただくことになっております。

三つ目は、平成30年4月に新たに事務ブースの使用団体の選考がございます。後ほど事務局から状況のお話がありますが、その選考委員を決めるということが三つ目でございます。

今回、事前に中田委員より統計資料を送っていただきました。ありがとうございました。後ほど説明の時間をとらせていただきます。

それではまず、事務局より議題（1）についてお話ししていただければと思います。

○事務局（古野係長） 施設利用件数及び施設利用者数について説明いたします。

市民活動サポートセンターの12月末の施設利用件数は、1万4,744件、施設利用人数は4万5,547人でした。いずれも昨年度の12月末の数字と比較して減少傾向にあります。人数を全ての月で下回っているという結果になってしまいました。

前回の運営協議会で、平成27年度と28年度を比較すると、利用件数は上がっているけれども、利用人数は下がっていますという報告をしていました。その理由として、新たな団体もふえておりますので、市民活動団体の減少ではなく、小規模な団体がふえていないかという説明をしておりました。しかしながら、29年度については、件数も人数も下がっているため、全体的に減少傾向であるという結果となりました。

ただ、平成29年度の4月から6月にかけて、利用件数は減少していますが、人数は増加している、また、10月から12月も同様に、利用件数は減っていますが、利用人数は増えているという動きになっており、これらの時期は、NPO法人の総会などで利用されているケースが多いことが理由かと推測しております。

利用件数の統計の分析については、中田委員が資料を作成していただきましたので、中田委員に説明をよろしくお願いたします。

○中田委員 施設利用状況についてまとめてみました。

今、12月末ということで、まだ年度の途中ですけれども、4施設の利用件数と利用者数、1件当たりの利用者数について、平成28年度と29年度をまとめてみました。

これを見ますと、今、古野係長からもお話があったように、残念ながら、平成29年度の利用件数が、12月末日現在で四つを合わせて4万701件、対前年度で見ても92%となっています。

その下の表は、利用者数で同様に4施設合計で4万5,100人ということで、前年度は96%なので4%程度減っていますが、これも同じ傾向を示しています。

それから、1件当たりの利用者数ということで、四つの施設の利用者数を平成28年度、29年度の2年分を比べてみたのですが、これについては、市民活動サポートセンター以外はふえています。どういうことかということ、1回当たりの参加人数がちょっとふえているので、それぞれの部屋が減ったとしても、3%か4%はふえているということです。

簡単ですが、以上です。

○寺田座長 ありがとうございます。

今、中田委員から説明していただきましたが、これに関して何かご質問はございますか。

○隼田委員 質問ではないですが、これを見ると、市民活動サポートセンターがほかより数値が大分悪いということですね。そのあたりについての分析、考察などがございましたらお聞かせいただきたいです。

○寺田座長 事務局はいかがですか。利用関係でちょっと数字が落ちているというところですね。

○事務局（山田市民活動担当課長） 私は、環境プラザと市民活動サポートセンターを担当しているものですから、環境プラザとの比較の中でお伝えできる部分があると思っています。

環境プラザは、学校の見学など大人数での利用があります。また、昨年から今年にかけて、見学の件数が増えていることもありまして、前年より人数が増えている形になっております。

市民活動サポートセンターの動きとしては、私たちの認識としては、極端に減っている印象ではないですが、数字であらわれている部分はまだまだというところになっております。

○事務局（古野係長） それでは、続けて、市民活動団体の登録団体数等について説明していきたいと思います。

市民活動団体の登録数は、12月末日現在で2,728団体の登録があります。今年度の4月から12月までで、105団体の新規登録がありました。この登録の有効期限が2年間と決まっておりますので、2年に1度、更新の手続きが必要になっております。ちょうど、現在、平成29年度末の3月で期限が切れる団体に対して、更新の手続きのご案内通知を出しているところです。今回は、約610団体が更新の対象となっております。

今まで、この2年ごとの更新のタイミングで更新手続きをしていない団体については、「期限切れ」という処理をし、団体からの申し出がない限り、登録団体数からは削除をしてきませんでした。そうした期限切れの団体が積み上がっております。この団体について、全てが解散した団体ではなく、サポートセンターの利用が必要なくなっただけで活動は継続している団体も多数あるかと思っております。しかし、登録更新されていないことから、ホームページなどで公開している情報が古くなっていることも懸念されますので、この指定管理期間が一区切りする今がこれらの団体を整理するタイミングであると考えております。その件については、札幌市と今後協議していきたいと考えて

おります。

続きまして、市民活動相談・専門相談の相談件数についてです。

こちらは、昨年度よりも活用されているという結果が出ております。税務・会計相談も昨年度より少ないと思っていましたが、1月、2月は既に5件ほどの予約が入っておりますので、最終的には昨年度並みの結果となりそうです。

法律相談については、平成28年度の新規事業だったため、スタートした当初は年間を通して5件だったのですが、現在、29年度は今の段階で5件ありますので、少しずつ認知度が上がってきたところかと考えております。

続けて、平成29年度事業実施状況の中間報告について説明いたします。

実施事業の様子については、それぞれの担当者から後ほど報告いたします。

私からは、全体の概要についてお伝えいたします。

平成29年度は、スタートアップ支援に力を入れること、特に子ども、若者に向けた新たな取り組みを実施することを重点目標として行っております。

新規事業として取り組んだのは、シニアを対象とした「NPOはじめて講座」、NPO団体と子どもをつなぐ「NPO×子ども・若者マッチング事業」、児童会館に市民活動を伝える「出前講座」でした。

「NPOはじめて講座」は、サポートセンター事業の中でも参加者を安定して確保できる事業の一つですけれども、10月に行った「はじめて講座」は、シニアを対象としたことで対象が絞られ、いつもの半分ぐらいの参加人数でした。通常、ゲストスピーカーは呼んでいないのですが、この回は、NPOの代表をお迎えし、事例報告などをお話ししていただけたことで、参加人数は少なかったものの、参加した皆さんにとっては、具体的な活動の苦労話なども含めて学ぶことができましたので、充実した内容となりました。

その他の新規事業につきましては、後ほど担当者からお伝えいたします。

数値目標は、研修学習事業の定員充足率の目標80%のところ、現在72%、相談件数900件のところ、現在458件と、どちらもまだ途中経過なのですが、健闘しております。

「マネジメント講座」の定員充足率が低めですが、「はじめて講座」や「NPO法人設立講座」が、定員を超えての受け入れをしております。傾向として、これから活動を始めるための学びの機会を求めている方が多くいるのに、実際に活動を始めている方が、スキルアップのために学ぶ時間などの余裕がないのかなと感じております。

また、「マネジメント講座」の実施の時期やテーマなどの見直しも必要かもしれません。

それでは、それぞれの担当職員より主な事業の報告をいたします。

○事務局（西指導員） 「市民活動促進プロジェクト」は、大学生が市民活動について理解を深めながら、市民活動を知ってもらうために、自分たちの手で外部に発信していこうという事業です。今年度は、子どもたちがNPO団体のもとで活動する、子どもボランティア体験隊の引率及び報告パネルの作成、そして、9月のエルプラまつりにてサポートセンターで実施いたしました、しみサポえんにち、お祭りの縁日の準備や運営、そして、子どもたちが記者となってNPO団体取材し新聞を作成するという、「さっぽろ子ども記者」の映像撮影や映像配信の編集を実施いたしました。

また、メインの取り組みの一つであるコミュニケーションツールの作成もいたしました。

これは、子どもたちに市民活動やまちづくりに触れてもらうという目的のもとつくってありまして、今年度は、「スマイルまちづくりゲーム」ということで、まちづくり活動をしながら、まちの人たちのスマイルを集めていこうという趣旨のゲームを作成いたしました。そして、その「スマイルまちづくりゲーム」を札幌市内の児童会館、3カ所に持参し、実際に子どもたちと一緒にゲームをしながら、まちづくりについて学びました。今年度もサポートセンターのさまざまな事業の中で活動することができまして、参加している大学生にとっても市民活動に触れるいい機会になったと感じております。

現在は、最後の活動として、「さっぽろ子ども記者」の映像編集をしてありまして、2月中旬ごろに最後の振り返りをして、次年度以降、大学生の皆さんからの意見をいただけたらと考えております。

「スマイルまちづくりゲーム」を児童会館に持参したとご説明いたしましたが、こちらは、今年度初めて実施した「市民活動出前講座」という事業になります。

目的としましては、サポートセンターの中だけで事業を展開するのではなく、外部に直接出かけて働きかけていこうというもとで実施いたしました。今回は、3カ所の児童会館に行きました。どの会館でも子どもたちからの反応がよく、アンケートでは「まちのためにできることがたくさんあることがわかった」、「自分にできることがあると思ったので、ぜひあしたから実施したい」、「たくさんスマイルをゲットできてうれしかった」という感想がありました。

今回、各会館2時間という限られた時間の中の実施でしたので、子どもたちが全てを理解するには至らなかったかもしれませんが、子どもたちがまちづくりについて知る第一歩にはなったと感じております。

そして、この「スマイルまちづくりゲーム」を実際に実施した反省や修正を含めまして、各会館にプレゼントできるようたぐいま進めております。

次年度以降も外部への発信に力を入れ、対象は子どもに限らず、若者やシニア世代などの全世代に向けて発信していけたらと考えております。

○事務局（田村指導員） 「NPOインターンシップ」と「マチなか×NPO」について、私から説明いたします。

こちらの事業は、おおむね30歳までの若者を対象に行っている事業で、社会に出る前にNPOの活動や運営を体験し、団体の中でいろいろな世代の方と交流してもらうことでNPOを身近に感じていただき、社会課題と自分のかかわりや生き方、働き方などを考える機会としていただくことを目的に実施している事業です。

今年のインターンシップは、はじめに2日間をかけて、5団体の事務所訪問ツアーを行いました。前年度の課題で、参加人数が少ないということがあり、訪問ツアーを最初に持つてこようということだったので、成果はあったと思います。

訪問ツアーのアンケートでは、「NPOとは何だろうと思っていたのですが、お話を聞いてどういものか知ることができた」、「NPOの活動以外にも生き方についてなども学ぶことができた」、「より自分が活動の中に入ってNPOや福祉について知りたいし、実際に人を助けたいという気持ちが強まった」というような感想をいただきました。

インターンシップ期間は、8月から10月の3カ月間で、さきの訪問ツアーの参加者の2名のほ

か、インターンシップからの参加者が、新たに3名加わって、5名が活動しました。ただ、いざ活動をしようとする、団体のプログラムの日程が参加者の都合とうまく合わなくてあまり活動ができなかったという参加者もあり、活動の期間や予定の打ち出し方などにまだ課題が残りました。

この報告のリーフレットは、2月中の納品を目指して現在作成しているところです。

続きまして、「マチなか×NPO～聞いて、知って、参加して♪クリスマスちょこっと市～」というのが、こちらは、12月18日月曜日から20日水曜日までの3日間、札幌駅前地下歩行空間北3条交差点広場（西）という不特定多数の方が行き交う街中の広場で60団体が参加して、2日間参加している団体もいるため、延べで言うと93団体、延べ約600名の団体メンバーやボランティアが協力して、出展販売やワークショップ、ステージ発表、ポスターセッションを行い、広く市民に向けて日ごろの成果発表や活動PRを行いました。

この事業は、参加するNPOによる実行委員会形式で企画運営を行っておりますが、ことしの実行委員会は、11団体が参加しています。前年度は、運営スタッフの人数が少ないことで、出展団体への指示が行き渡らないなどの課題があったのですが、ことしは、実行委員が当日も自分たちの出展や発表のほかにも分担して役割を担って、協力して無事にイベントを成功させることができました。

ただ残念なことに来場者の人数が、昨年の9,706人からことしは7,972人と大幅に減っていました、1日ずつの人数を見たときに、1日目だけ実施時間を少し遅くしてありまして、1日目だけがほかの2日と比べて1,000人以上少なく、実際の印象としても、夕方から夜の時間は、人通りはあるけれども、来場者数が少なかったと感じておりますので、そのことが原因と考えられます。

出展者からのアンケートには、「ほかの出展が参考になった」、「コミュニケーションの場になった」、「来場者からのご意見や相談を受けて、ふだんとは違うつながりを持つことができました」などの感想があり、会場での来場者アンケートにも、「とても温かいイベントでした」、「札幌市の市民の皆さんが、きちんと反応することが大事」、「今後も大いにPRをし、NPO活動をしていただきたいと思う」などの声をいただきました。

また、「道外から札幌に来ていて、たまたま立ち寄りました」といった方も多く、広く観光客の方にも楽しんでいただいている印象がありました。

○事務局（古野係長） 私からは、「市民活動マッチング事業」と「さっぽろ子ども記者」について報告いたします。

今年度の新規事業の一つ「市民活動マッチング事業」は、報告書の2館のほかに、先日、1月20日に南月寒小ミニ児童会館で織物体験をしてまいりました。

織物なので、たて糸とよこ糸を織り込むものですが、特別な機織り機などを使うのではなく、家庭でも再現できるように、色紙を工夫して織り機の原理を再現するなど、工夫して実施してくれておりました。

大型絵本の読みきかせや、防災の講座についても日常とは異なる体験ができております。NPOにとっても子どもたちとのかかわりから新たな事業につなげることができており、この事業の効果を感じております。

続きまして、「さっぽろ子ども記者」についてです。

この事業は、子どもたちが記者となってNPO団体に取材に行き、新聞形式でまとめて発表しました。

昨年度は、冬休み中に実施したため、冬休みの課題にちょうどよいからなのか、参加者がすぐ集まりました。そのときは雪道の移動が大変だったものですから、今年度は10月に設定しました。季節的にはよかったですけれども、子どもたちの参加動機が生まれにくかったためか、参加者集めに少々苦勞しました。

この事業は、子どもたちがNPOの活動内容から社会の課題を知ることが目的ではありませんが、受け入れ団体の方も、子どもたちから取材を受けて、子どもたち自身の言葉で活動内容を報告してくれたことにとっても意義を感じてくれていました。団体の活動を子どもたちの声をかりて伝えていくことで、いつもと異なる層への周知ができることを実感しております。

後日、「子どもがつくった新聞が欲しい」、「ぜひうちの職場で掲示させてほしい」、「会報やホームページに報告を載せたい」など、全ての団体からリアクションをいただくことができました。この事業については、子どもだけではなく、双方向にとって有効な事業だと感じております。

市民活動のアンケートの結果ですが、前回の運営協議会の中で、事業プラスアルファのハード面の充実はどう考えているのですかという質問をいただいております。今回のアンケートで、新たに備品設備で何か欲しい物がありますかとうかがったところ、第1位が小型プロジェクターでした。私達も実現できるところから利用者の声を反映させていきたいと考えております。第7位にあるラミネーターですけれども、この結果を見て、ぜひ寄附したいという方もいらっしゃいました。皆様の声をいただいて、それを掲示することで、こういったフィードバックがあるのだなと効果を感じております。

また、かねてからお声がけいただいております、しみサポホームページの更新について、9月に隼田委員にもメンバーになっていただいて、ホームページの改修に向けてワークショップを開催して、一歩踏み出したところではございます。ただ、現在、契約とサーバーの関係でちょっと立ちどまっております。今年度末から改修に手をつけるか、来年度すぐから開始するか、今、時期を見ているところなのですけれども、ワークショップでいただいたアイデアをもとに進めていきたいと考えております。

○寺田座長 ありがとうございます。

それでは、いろいろな事業をやってきたことの報告をしましたので、事業でも構いませんし、これからの残りの事業についてでも構いませんので、何か質問ございませんか。

○宮本委員 利用状況総括表の中で、私も人数のところがちよっと気になっていました。「ちよこっと市」は昨年と比べると、1,800人ぐらい違います。今の話の中では、開始時間が短かったので、昨年から1,000人ぐらい減ってしまったのではないかという話がありまして、ああ、そうなのかと関心を持って聞いていました。

ただ、1,800人は結構大きいと思っています。それは本当に1時間の違いで1,800人なのかがちよっと疑問で、もしかしたら1時間短かったというだけではない別な理由があるかもしれないというところは少し検討が必要ではないかと感じました。

○寺田座長 ありがとうございます。

それについて、事務局からお願いします。

○事務局（田村指導員） 私の説明が不足しておりました。

時間が短かったということではなくて、1日目だけ時間を午後の2時から夜の7時までとずらしています。時間数は同じなのですが、夜の時間にかかるように遅い時間に開催したのです。それは、昨年のご要望の中に、もっと遅い時間までやってほしいという出展団体の方のご意見があったので、ことしは1日だけ遅い時間にずらしてみようということで試みました。ただ、夕方から夜にかけて、人通りはすごく多いのですけれども、立ち寄ってくれる方があまりいらっしゃらなくて、外にはすごくたくさんの方がいるのですけれども、中にはあまり入ってきていないという印象がありました。

集計するために出展団体の皆さんから何人が立ち寄って、何人のご利用者がいましたかという人数を出していただくのですけれども、その人数が、朝からやっていた日よりも、午後から夜にかけての日のほうが少なかったということです。

○隼田委員 その時間帯が影響したかどうかを調べようとする、時間帯別の人数のカウントが必要になると思うのです。そういうデータのとり方をされているかということと、もう一つ、その日の天候が去年と比較してどうだったかということも知りたいと思いました。

○事務局（田村指導員） 時間帯は、前半と後半で分けておりまして、11時から16時までの時間でやっているときには、11時から13時まで、それから後半という形です。14時から17時までは、14時から17時までと17時から19時までの前半と後半で人数を数えておりました。

○隼田委員 そのときに、1時間の誤差はありますけれども、13時から16時の時間帯、14時から17時の時間帯は、去年と比べて双方ほとんど変わらないと思ってよろしいのですか。

○事務局（田村指導員） 今、数字を正確には申し上げられないのですけれども、恐らく、ほぼ同じくらいかと思います。

○隼田委員 とすると、11時から13時と17時から19時のところで千何百人の差が出たということですね。

天気が晴れていたとか、温度の関係とか、いろいろあると思うのですけれども、YAHOO!の天気予報のページを見て、過去の日を調べると、去年やおととのデータが出てくるので、そういうものもあわせて比較されるといいと思います。

○奥山委員 私は、初日だったのでしょうか、19時までされていたときに、ぎりぎり19時に滑り込みぐらいで顔を出したのですけれども、フルタイムで働いている人間だと、19時で終わると行けないのです。17時から19時の時間帯は、ちょうど退勤の移動中なので、例えば、私もそうなのですが、フルタイムで働いているこれぐらいの世代の人間は、正直に言うと、参加しづらい時間帯の設定になっています。人数が減ってしまったから、そのまま夜はやめようというよりは、その時間帯にどんな属性の人が来ていたか、年齢とか、男女比とか、子どもが多かったとか、どこがターゲットかによって、昼間の時間が暇な人に来てもらえばいいのか、夜の時間に暇ができる人に来てもらえばいいのかという人数以外にも大事なところがあるのではないかと思います。

そうすると、例えば、19時までという設定だと減ってしまう。21時までにしたからといって、ふえるかというもまた別の話だとは思っているのですけれども、参加されている団体が人を呼ぶ場合に、フルタイムの人でも来やすくなるのではないかと思います。

○寺田座長 ありがとうございます。



やはり、いろいろな観点で細かく見ていかなければ、なぜという理由は出てこないかなと思いました。

今回の「マチなか×NPO」で何を訴えたかったかというところと、ターゲットになる世代を細かく分析して、自分たちが目的としていた結果になっていないとしたら、きょう言っていたことは次回に向けてすごく参考になると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、中田委員、どうですか。

○中田委員 もう一つ、去年の12月18日、19日、20日を見たら、月、火、水と3日間とも平日だと思ひますのですけれども、例えば、これを金、土、日とか、木、金、土とか、休みを1日、2日入れるということは考えられなかったのでしょうか。あるいは、今度、そういう試みをしてみてはどうかという提案を含めて、検討していただければと思ひます。

○寺田座長 ありがとうございます。

その辺について、何かありますか。

○事務局（古野係長） ぜひ土・日に入りたいと考えております。ただ、地下歩行空間は大変混み合っていて、やりたい時期にやりたいことができないのが現実です。

○中田委員 12月ですからね。

○事務局（古野係長） はい。年間を通してあいてるのが12月のここしかないというぐらひの混みぐあいだったものですから。でも、来年度も希望は出していきたくと思ひます。

○寺田座長 いろいろなご意見をありがとうございます。

それでは、事業に関して、ほかに特にないでしょうか。

草野委員、お願ひします。

○草野委員 施設の人数の話でもいいですね。

前年から減っているという話だったと思ひますが、サポートセンターだけで判断をしないほうがいいと思ひています。道立市民活動促進センターのほうもありますし、ここの施設の問題なのか、札幌なり、北海道なり、全体で見たときに市民活動が少し後退ぎみなのかというところの兼ね合いも見たほうがいいのではないかとと思ひました。

私どもの団体も年間活動日数を毎年計測するのですが、震災が起きるとすごくはねるのです。あるいは、社会の明確な課題が出ると、人々の関心が高くなるので、こういう施設に来る人数とか、うちの団体も出入りする人がばっとふえて、いろいろなところに声がかかるといふふうになります。それから数年がたって、震災の活動が落ちついてきているはずなので、そういう社会情勢の変化も影響するはずで、とは言いつつ、減っているので何か手を打たなければという話もあると思ひますが、もう少しいろいろな切り口で見たほうがいいと思ひました。

○寺田座長 ありがとうございます。

隼田先生、お願ひします。

○隼田委員 人のことでもう一つ気になっていたのが、最近、いろいろな場所では働いている高齢者の姿を見かける率が年々すごく高くなっていると思ひます。そういう元気なお年寄りが市民活動に積極的に参加されていたと思ひますが、経済情勢や人出不足といった中で、そちらに人材がとられているということもあるのかなと感じられるので、社会的な統計との相関も見たほうがいいかもしれません。

○寺田座長 ありがとうございます。

奥山委員、お願いします。

○奥山委員 今年のこの数というのは、来年に向けての部分になると思うのですが、創成1. 1. 1区のところには市民交流プラザができたときに、あの中でアート系の団体のための施設ができるかもしれないという計画を聞いて、もしかすると、アート系の団体がぞろっとそちらに流れる可能性もあると思います。私もアート系の団体で登録しているので、もし向こうも同じような使い勝手になるのならそちらに登録すると、横のつながりができやすいと思います。テーマが決まったところがあると流れがちになると思います。もともとどれぐらい使っているかわからないのですが、もしかすると、来年、より減る可能性はあると思っております。

○寺田座長 草野委員、お願いします。

○草野委員 先ほど隼田委員のお話を聞いていて思ったのですが、私が肌感覚で感じることを言うと、まず、大学生はとても忙しくなっているようで、活動団体数は減っているはずだと思います。ここの強みはそれがあつたと思うのですが、ちょっと違う傾向としては、今回、パラレルキャリアの話もありますけれども、社会人の活動家の人たちがふえてきていると思っています。今、その層がどれだけふえていて、こういう活動にコミットしてきている人がいるのかというデータがまだとれていなくて、ひょっとしたら、立地条件で考えると、ここの施設が対象を考えたときに、その層はまだ拾い切れていない層で、ちょっと探している人たちがふわふわふわといるはずだと思うのです。そうすると、いつも話しているのですけれども、ここの施設の立地環境は非常にすばらしいので、あの辺を少し広げていくというのは、また少し数字が見えてくるといいなと思いました。

○寺田座長 ありがとうございます。

瀧谷委員、お願いします。

○瀧谷委員 相談事業というのが、顕著にふえて1. 5倍ぐらいになっているのかなと思います。ただ、こちらのパワーポイントの市民活動相談・専門相談の表で見ると、特に何がふえたのかがちょっとわかりづらかったと思っています。特に去年に比べて、こういう相談が最近ふえましたという情報があれば、少し教えてもらえればなと思います。

○寺田座長 お願いします。

○事務局（古野係長） 市民活動相談の件数が、昨年度末で429件だったのが、平成29年度の12月末の時点で458件あるので、もう既に追いついている件数になっております。

あわせて、我々職員が対応しているのも昨年度の1年間で31件だったのが、12月末の段階で64件になっています。ふえたのはこの部分です。

相談の内容については、そんなに大きく変わっている印象はなくて、実際に事業をしていく上で、人集めや資金集めというところの悩みは余り変わっていない印象を受けております。

○寺田座長 瀧谷委員、いいですか。

○瀧谷委員 はい。

○寺田座長 宮本委員、お願いします。

○宮本委員 私も今の相談件数のところで、事前にいただいていた資料の中間報告のほうでは、1ページ目の目標の数値として相談件数は900件と掲げている中での現状は458件という状況で、昨年と比べれば変化はあると思うのですけれども、まだ目標までは至っていないというふうに数字

を見せてもらっていました。

私は、東京ボランティア・市民活動センターでの相談業務のことを調べて、ホームページを見たりすると、相談したい人がクリックするところに、よくあるQ&Aとか、こういった相談内容がありますというものが幾つか載っているのですけれども、2015年まで1年ごとに載っていたのです。その中身を見てみると、その年にどんな相談が多かったか。地震や震災があれば、それに関する相談内容がこんなふうが多かったというその年の傾向みたいなものがすごく出ていたりします。また、Q&Aはもちろんですけれども、NPOなのか、個人なのか、企業なのか、どうやって来ているのか。メールなのか、電話なのか、ファクスなのか、手紙なのか。その年の1年間の細かい分析みたいなものが出ています。そして、一番最後には、次年度はこうしていこうと思いますみたいな抱負が書いてあって、そういうものは、使い手側として見るのも見やすいと思うのですが、相談業務を積み重ねられるという残るものとして積み重ねていく一つの見え方かなと思っていました。

ぱっと見た限りだと、ここの相談業務のボタンを押すと、いろいろな種類のQ&Aが載っているというぐらいだったと思うので、もうちょっと細かくてもいいのかなと思いました。

○寺田座長 ありがとうございます。

それでは、まだ残りの議題があるので、一旦、次の議題に移り、また最後に何かあれば全体を通して伺いたいと思います。

それでは、二つ目の議事の平成30年度の事業計画（案）について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（古野係長） それでは、次期指定管理5年間の目標と平成30年度の事業計画（案）についてお伝えします。

今までの指定管理期間は4年間だったのですが、次期指定管理期間は5年間となります。

今回の大きな目標として、サポートセンター及びサポートセンター職員を5年間計画で育成していきたいと考えております。そこで、運営の基本方針と評価をリンクさせて、運営方針を意識して事業を実施できているか、検証する視点も明確にしました。

まず、基本方針は、（1）一人一人の困り事に耳を傾けること、（2）コーディネーターとして役割を意識し、コミュニティーをコーディネートすること、（3）社会の動きなど、時勢に敏感な視点を持つことです。

これらの方針を踏まえて運営事業を実施した結果を三つの視点から評価していきます。

（1）一人一人の声に耳を傾けることができたのか、（2）俯瞰的に全体のつながりやバランスを調整できたか、（3）先を見通し、時宜にかなった情報を提供することができたか、このように常に事業を実施し、その評価をしていく時間をきちんと取りたいと考えております。

あわせて、現在、サポートセンターの職員は10名程度ですけれども、この10名の半数近くが有期雇用の職員となっております。異動もあり、経験年数も異なります。そのため「こんな職員でありたい」と目指すレベルを明確にすることで、それに向けて努力することができると考えております。その指針として、目指す職員像を明確にしました。一人一人がサポートセンター職員の一員として、振り返りもそうですし、自分で学びに出かけるとか、業務の間に勉強する時間を持つとか、そういった自己研さんできる環境づくりを目指していきたいと考えております。

これらを踏まえて、次期指定管理1年目となる30年度の重点目標は、世代ごとのアプローチや

潜在層へのアプローチに力を入れていきます。そのために、参加者や職員とのかかわりを大切にしたいワークショップ形式の事業、または、アウトリーチ事業を積極的に取り入れていきます。

今年度に挑戦したシニア向けの「はじめて講座」は、参加者が少なかったという結果になりましたが、この実績から、アウトリーチで実施したほうが必要などところに必要な情報が届くのではないかと実感しました。

また、「市民活動促進学生プロジェクト」では、学生と一緒に作品をつくり上げる作業や経験を通して、学生のアイデアを形にするおもしろさを職員が体験しております。この経験を新たな事業の形として、市民と一緒につくり上げる共創、ともにつくることを大切にすることで、より寄り添った事業ができるのではないかと考えております。

それでは、平成30年度の事業については、小平からお伝えいたします。

○事務局（小平指導員） 平成30年度の事業計画について、主な事業を説明いたします。

平成29年度の実績や課題を踏まえまして、30年度の新規事業、レベルアップ事業についてご説明いたします。

「しみサポテラス」、「月イチ交流サロン」は、今まで実施してきた「しみサポつながるカフェ」を二つに分けた形になります。「しみサポつながるカフェ」では、市民活動のきっかけづくりと団体同士の交流という二つの目的を果たそうとすると、焦点がぼやけてしまいまして、新規の客層を取り込むことの難しさが残りました。来年度は、目的を明確に分けた事業展開を行いたいと考えております。

平成29年度の実績の一つとして、サロンに必ず来てくれる常連さんを確保することができましたので、今後、月に1回定期的に実施することで、毎月10日はサポートセンターの日という形で、皆さんがサポートセンターに来る習慣になればと考えております。

今後は、職員主導から自立したサロン運営へと少しずつ発展していくことも視野に入れていきたいと考えております。

「子ども・若者の市民活動促進事業」につきましては、まだ具体的な事業まで固められてはいないのですが、今まで、子ども、若者を対象に行ってまいりました「子どもボランティア体験隊」、「さっぽろ子ども記者」、「NPOインターンシップ」、「市民活動促進学生プロジェクト」を統合しました。事業を一本化するということではないのですが、それぞれのよさをうまく融合させていくことで、いい事業の形を生み出していければと考えております。事業内容もそのような方向で検討してまいります。

「しみサポ事業サポーター」は、サポートセンター事業を応援していただくボランティアの募集事業です。今年度の8月ごろから試行的に「NPOはじめて講座」の中で周知などを行ってまいりました。これまでは、「エルプラまつり」や「マチなか×NPO」など、事業ごとに活動してくれる方がいらっしゃいますので、平成30年度は、広報さっぽろなどでも周知いたしまして、潜在層への働きかけをしたいと考えております。

「NPO出張ワークショップ」は、平成29年度の児童会館との連携からスタートした「マッチング事業」や「出前講座」を拡大していきたいという思いと、「市民活動促進学生プロジェクト」を通して実感した、学生のアイデアをもっと企画に生かしたいという思いの二つを込め、新規事業としました。最終的には、地域の中での活動やセンター職員がいろいろな困り事などを解決するよ

うなワークショップのお手伝いができるように力をつけていきたいと考えております。段階を踏んで実施してまいりたいと思っております。

「しみサポ・マルシェ」ですけれども、こちらは、今まで実施してきた、「おためし！！出展」のレベルアップ事業となります。「おためし！！出展」の参加団体がだんだん定番化してまいりまして、出展の形を変えることで、今まで参加できなかった団体の皆さんにも挑戦していただける機会を提供したいと考えております。今までは、物販が中心の活動発表となっておりますが、ペーパークラフトなど体験型の参加が増えると、さまざまな年代の方に楽しんでいただけるものになるのではないかと考えております。

最後に、「市民活動相談」ですが、実施回数を減らすとともに、設置時間を短縮させていただきたいと考えております。市民の方からの要望もある夜間帯の相談窓口を設置することで、回数が減る分をそこでカバーしていきたいと考えております。

以上、平成30年度の新規事業を抜粋してご報告いたしました。

○寺田座長 ありがとうございます。

それでは、今の報告に対して、質問、意見などがございましたら、お願いいたします。

○隼田委員 広報さっぽろなどで周知していくというお話があったのですが、広報さっぽろは、5月からイベント情報が削除されますね。他の会議でもちょっと話題になっていたのですが、いろいろなところで不便になるのではないかと考えています。特にNPO絡みとか市民活動サポートセンターの情報が冊子に載らなくなるというのは、そこから情報を得ている方が結構いらっしゃるので、それがちょっと心配です。また新たな広報活動の方法を考えなければいけないと思います。

もう一つは、先ほどの報告のところとも関係するのですが、私も若者や子ども向けの事業にいろいろ携わらせていただいていたのですが、これらの事業の多く、特に子ども向けの事業ですと、子どもの夏休みや冬休みという小学生の休みの時期を狙って開くことが多くなります。けれども、残念なことに大学生の休みとうまくマッチングしないという問題がありまして、スケジュールを組むのがかなり難しいのです。ですから、これからいろいろとプログラムを組み直されると思うのですが、組み直すときに、場合によっては、年度の縛りを余り意識しないで組んだほうがいいのかも思えないと思います。例えば、今年度で言いますと、「子どもボランティア体験隊」に大学生にも参加してもらって、その上で「さっぽろ子ども記者」をやろうというもくろみだったと思うのですが、最初に体験してもらいたかったところに学生が出られなくて、いきなり「さっぽろ子ども記者」という形になってしまうので、春休みに大学生の体験的なプログラムを組んでおいて、夏休みの後半、お盆明けくらいに子ども向けの事業を大学生に手伝ってもらってやるというふうにするとうまく、年度はまたいでしまいますが、例えば冬場に実行したことで移動に時間がかかって進行が遅れるとか、今まで起きていた時期的な問題などは解消できるのではないかと考えています。ですから、年度の縛りを余り意識しないほうがいいのかも思っています。

また、「NPOインターンシップ」もほぼ大学生が対象だと思うのですが、これも全く同じで、7月の頭にあつて、その後、NPOの訪問ツアーが8月の頭からスタートします。これは期間が長いですが、8月の頭は先ほど言ったような状況で出られない学生が多いので、学生を集めづらいのです。ことし、私も資料をいただいて学生に声かけをしましたけれども、その時期は無理ですねという声があつて、そうだよねと言って終わってしまいました。ですから、ターゲットとする

人たちの年間スケジュールを事前にチェックされて、スケジュールを組まれるのがいいかなと思いました。

○草野委員 私も、札幌近郊の大学の全スケジュールをA、B、C、Dで評価してしまっていて、この時期はテスト期間なので、どこの大学がどの時期に忙しいかを押さえています。これからの時期がお勧めですが、これからの時期は動けないので、言葉がよくないですけども、スケジュールを見ると3月ぐらいはすごく暇です。

○隼田委員 そうなのです。2年生などは3月がチャンスです。3年生になると就活が始まってしまっているので、無理ですが。

○草野委員 ですから、年度末はなかなか事業が組み立てにくいということも背景にあると思っております。

私も少しお手伝いさせてもらった3番ですが、子どもと若者の組み合わせで教育的価値を高めましょうという狙いが見え隠れします。今、中、高、大の全部で、アクティブ・ラーニングや課題解決型授業のようなものがふえてしまっていて、僕も大学とかいろいろなところで何度かやっていますが、組み立てるのにすごい手間暇がかかっています。かつ、やったのに成果がわかりづらいということがあると思うのです。

僕がいろいろとやっていく中でお勧めだと思っているのは、児童館でもやられていますごみ拾いです。ごみ拾いはどこでもやるのですが、ごみ拾いをした後に、なぜポイ捨てが起きているのかということから掘り下げると、地域の実情や、そこをどういう人が通ってポイ捨てが起きているのかとか、マーケティングの知識になって、どうすれば予防できるかというふうに、課題解決能力を身につけていくプロセスと一緒にいって行くのです。かつ、きれいになったという成果がわかりやすく、お勧めでやりやすいテーマです。さらに、大学生がそのサポートに入りやすいものなので、もし両者の学びをふやしていって、かつ、参加した子どもや若者が課題解決とはどういうことなのだろうということを体系的にきちんと理解するには、ポイ捨てをどう予防するかというテーマでカリキュラムを組むのはお勧めです。

そういうところまで絞らないと、なかなか大変だと思うのです。いろいろなテーマがあるので、どんどんやっていきたくなくなってしまうと思いますが、もし5年間チャレンジするのであれば、何か一つのシステムをレベルアップさせていく形にしていったほうがいいのではないかと思います。

○寺田座長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○瀧谷委員 相談員による「市民活動相談」は、来年度からは日数が減るということですね。今までも予約制をとっていたということですが、例えば、電話などで相談に乗っていただきたいと言われた場合に、それでは、予約をしていただいて、いついつに来てくださいというように、その場で受け付けるようなシステムなのですか。予約の手続にすごく時間がかかってしまうのか、手間にならないような形で対応してもらえることを考えているのか、その辺をお聞かせいただきたいと思います。

○事務局（古野係長） 現在の予約のとり方は、ほぼお電話で連絡をいただいております。1日3枠ありまして、今だと3時から、4時から、5時からで、1回の相談が40分から45分ぐらいというふうにご案内しています。

また、相談員を選んで予約してくる方も多いです。この相談員は地域活動に詳しいとか、助成金についてはこの相談員が得意ですとか、それぞれの相談員も自分は何が得意ということをプロフィールに書いていますので、そういったところで人を選んで予約する場合と、自分の都合がいい時間帯を選んで予約する場合の2パターンがございます。

今、予約が優先になっておりますが、あいている時間に立ち寄って、今ちょっといいですかという相談にも対応しております、そういった利用の仕方をしている方もいます。

そんなことから、週4回、火、水、木、金の3時から6時まで相談員がいるという状況は、私たちにとってもとても安定感のあるものだったのですが。

○瀧谷委員 それは相談員と面接をする形だと思うのですけれども、電話で相談に対応することもあるのですか。

○事務局（古野係長） 基本的には面接優先ですが、どうしても来られない遠方の方などは、予約した時間帯に相手様からお電話くださいと言っているのですが、電話が来なかったときにこちらからかけてみるというような対応はしております。やはり、面接のほうが話がわかるので、相談員も面接を希望しています。

○瀧谷委員 例えば、予算的に厳しいということがあれば、市内でそういう相談を受けていただけるようなNPOの方とか、環境のことだったらあの辺に電話をしたら誰かが常時いてくれる団体だとか、ここに相談員はいないけれども、あそこに電話をかけたらいるのではないかとか、もちろん事前に団体と緩い協定のようなものは必要だと思うのですけれども、そういうご紹介をしてあげたり、相談を受けられる団体リストのようなものがあると、では、ここにかけようとか、ここに行ってみようというふうになって、全てがここに来なくても解決するということになると思います。そういう協力関係もあればいいのかなと思いました。

○寺田座長 ありがとうございます。

ほかにいかがですか。

○宮本委員 世代ごととか潜在層へのアプローチをしていきたいというところを読んでいて、私自身、最近、子育て世代の人たちを対象とした話をする場、これからの自分の人生を考えてみようとか、悩みを話し合おうとか、私自身も母親であることから、そういう場の進行をする機会が多くなってきています。

その中で、ちょうど私ぐらいの30代とか40代の子育て世代ですね。特にゼロ歳から3歳の幼稚園に入るぐらいお子さんのお母さんたちがまちづくりとかボランティア活動などをする場が実はないのです。私もそのときに感じていたのですが、子どものためのサロンとかお母さん同士が話をする場はふえてきているのですが、ちょっと社会の役に立ちたいとか、子どもと一緒にいてもできるボランティアをしたいという場所や機会や環境がないというふうになんとも感じています。私より若い世代であっても、最近、N女とか、NPOが一番最初の就職先だったという女性たちとか……。

そういう世代がお母さんになったときに、子育てサロンでは物足りないというか、子どもを連れてでもボランティアとか社会の活動をしたいというニーズがあるのです。そして、育休の間だと、子どもがいれば意外と時間があるのです。例えば、そんな方たちがここで活動できるような仕組みとありますか、環境の応援だけでもいいと思うのです。子どもが遊べる物を置ける場所があって、そこで打ち合わせができるとか、環境を整えるという応援の仕方でもいいと思うのですが、その層

がボランティア活動や社会貢献の活動ができる時間があれば、その人たちは、子どもが3歳になったり小学校に上がると社会に復帰すると思うのです。社会に復帰したときに、そのときにつながった団体とか、そのときにやった活動が絶対に残っていて、復帰してもきつとつながりを求めたり、応援する側に回るといふふうになれるような気がするのです。

全く新しい話になってしまうのですが、その辺の層のことも考えていただければいいなと思っておりました。

○事務局（古野係長） 先日、「NPOはじめて講座」を行ったのですが、初めて託児があったのです。ゼロ歳と4歳のお二方で、お友達同士だったわけではないのですが、ここ3年ぐらい託児つきの「NPOはじめて講座」をやっていて、初めてだったのです。そういったN女がふえてきているのかなというのは、今のお話とあわせて実感できる場所ではありますので、そういうことも参考に考えていきたいと思えます。

○寺田座長 ありがとうございます。

予定の時間がちょっと迫ってきていますが、ほかにありませんか。

○隼田委員 今まで、子ども中心にかなり長期視点でまちづくりの種を植えてきたと思うのですが、大学生向けへのアプローチもしたいというお話がこの場ではないところで前にあったと思えます。出前授業を提案していただけたら、うちも対応できると思えますし、多分、そういうものを求めているところがいっぱいあるような気がするので、ぜひ事業化していただきたいと思えます。

○事務局（古野係長） ありがとうございます。

今考えているのは、新規事業の5番目の「NPO出張ワークショップ」などで、大学生と一緒に何か企画を考えようとか、今、せっかく学生がつくってくれたゲームなどの財産もありますので、それを外に持ち出して新しい学生と一緒につくっていきたくて考えております。ぜひお声かけさせてください。

○寺田座長 ありがとうございます。

それでは、まだまだ時間が足りないぐらいだと思いますが、この辺で最後の議題に進みたいと思えます。よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○寺田座長 平成29年度入居分の事務ブース使用団体の選考ということで、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（古野係長） 現在、4月からの新規入居分について募集をしているところで、2月18日が締め切りになっております。実際に申込団体はまだございませんが、お問い合わせが多く、手応えを感じているところでございます。

選考委員については、2月下旬を予定しております。今回は、新規入居団体の選考と、現在、既に入居している団体の更新の選考になります。これまでと同様、札幌市市民活動サポートセンター事務ブース貸し出し要領第6条及び第7条に基づき、選考については、選考委員会を設置し、書類選考と公開面接を実施いたします。

また、選考委員につきましては、運営委員の皆様からお二人の推薦をお願いしたいというふうを考えております。

○寺田座長 それでは、委員の選考に移らせていただきます。



皆さんの中から、自薦、他薦を問いませんので、ございましたらぜひお声を上げていただければと思います。

(「なし」と発言する者あり)

○寺田座長 特にないようでしたら、事務局で何か案をお持ちでしょうか。

○事務局(山田市民活動担当課長) 事務局からは、今回、隼田委員と奥山委員を推薦させていただきたいと思います。いかがでしょうか。

○寺田座長 それでは、隼田委員と奥山委員のお二人はいかがですか。お願いできますか。

○隼田委員 はい。

○奥山委員 はい。

○寺田座長 ありがとうございます。

両委員、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3. その他 意見交換

○寺田座長 それでは、もう少し時間がございますので、全体を通してご意見、ご感想がございましたら、委員の皆様方から一言ずつお聞かせいただければありがたいと思います。

瀧谷委員からでいいですか。

○瀧谷委員 次年度以降の課題なのかどうかわからないですけれども、何となく社会的には、働き方改革とか、サラリーマンの副業を許容しようとか、仕事が終わった後、どういう生活スタイルにするのかという話をよく聞く昨今です。今回、シニアとか子どもなどを結構重点に考えられていますが、サラリーマンの方々のアフターファイブ、5時なのか6時なのかわからないですけれども、そこがさらに充実するような取り組みも今後検討する機会があればお願いしたいと思っていました。

○寺田座長 宮本委員、お願いします。

○宮本委員 本運営協議会の進め方について、次年度に生かしていただけたらなということで、ちょっと気になっていることを申し上げます。

まず、これだけの委員が集まっているということで、とても貴重な2時間だと思っているので、説明、共有の時間がちょっと長いかなと感じていました。今回は、過去の終わったものの資料を送っていただきましたが、新年度の取り組みに関しては、本日初めて見た資料だったので、可能な限り、事前に送っていただければ、こちらで読み込みをしたいと思います。資料を読んだ上で、説明は書いていないところだけにしていただいて、あとは、質問やこちらから聞きたいことに答えられる時間をとっていただくほうが、委員としてはきょうは役に立てたなという実感を持てると思っています。

ですので、説明や共有の時間は少し短目にして、討議等に時間を割かれるとよりいい協議会になるかなと思いました。

また、議事についても、何々について、何々についてというタイトルは書いてあるのですが、私たちは何について意見を言えばいいのか、アイデアを考えてきたらいいのか、用意すればいいのかというところまでを書いておいてもらえると、調べたり、準備ができるなと思っておりました。

多分、ここの委員は、一人一人、専門の分野があったり、それぞれ強みを持っている人たちだと思うので、その強みを意識して、何について聞きたいとか、アイデアを考えてきてくださいとか、

意見が欲しいですと書いてもらえると、こちら側もより力を発揮できる2時間になるのではないかと思います。ぜひ次回は、何について聞きたいのか、意見が欲しいのかというところもあるといかなと思えました。

○寺田座長 ありがとうございます。

隼田委員、お願いします。

○隼田委員 私は、ちょっと細かいところというか、先ほど言えなかったところを言いたいと思います。

ホームページの件は、次年度に向けて、これから検討されていくと思いますが、フェイスブックが結構使われてきているというのは、大分いい感じになってきたと思います。フェイスブック上でみんなのしみサポもリンクしてあったりというのはすごくいいと思います。事務ブースの使用団体の特集とか、今回は月に1回とか、今回はこの団体というものをピックアップして、短い記事を上げてあげるようなことをするとよりいいのではないかと思いますし、事務ブースを使うことでそういうふうに宣伝してもらえるとというふうになると、いろいろな団体も使ってみようかということにつながると思いました。

もう一つは、サポートセンターのホームページの内容拡充ということで、ワークショップでも議論をしてきたのですが、札幌市で大部分の機能を移動しました。残された機能を整理していこうとすると、本来、札幌市のほうで一番やっていただきたかったのは、データベースの部分でした。部署が違ってできなかったのだと思いますが、男女共同参画管轄のところに団体の登録のデータベースがあって、実はあれが相当ネックになっているのです。

今回、市民活動サポートセンターのホームページをリニューアルしたとしても、あそこの部分がうまく機能しないということが大きな問題になると思うので、これは札幌市のほうにも横のつながりをお願いしたいと思うのですが、寺田館長にもお願いをしたいことで、市民活動サポートセンターではなく、男女共同参画の中でもデータベースを変えるような活動をしてもらって、内部でつながっていただいて、この市民活動サポートセンターのホームページもより使いやすくなるようにしていただきたいと思っています。

○寺田座長 ありがとうございます。

○草野委員 指定管理の更新をして、今度は5年でしたね。恐らく、NPOだけではなく、もっと広く見てもそうだと思うのですが、激動の時代になると思っています。2020年の東京オリンピック・パラリンピックにかけて社会がどんどん投資をしていっているのですが、その反動がその後に来るとということが一つです。

もう一つは、それこそ休眠口座のような、予算がどかんとつくような動きがまたあって、そのときは、嫌らしい言い方ですが、ある意味、NPOバブルみたいなものが起きて、その後はどうするのかという議論が絶対に出てくるのです。

要するに、その二つが次の5年間でとなると、その二歩先を読んで手を打っておかないと、利用者ががばっと減るとか、潰れるNPOがどんどん出るとか、潰れるNPOだけだったらまだいいのですが、社会の課題は結構深刻なものになると思います。夢や希望を持っていたところから現実が一気にやってくるというのが、次の5年間のときにダイレクトに来ると思うのです。

中間支援は本当に難しいと思うのですが、その先を読みながらも、目の前のNPOなどで現実に

起きていることの情報が入ってくるのは、結局、どうしても後手になってしまうのです。目の前のNPOから話を聞いて課題を把握するということで、ここはすごく難しい立ち位置なのですが、そこを見ながら日々の支援活動に着手しないと、いろいろなところに影響が出てしまうなとつくづく感じています。

これからの5年間は今までと違うという気持ちで、僕もそうですけれども、一緒につくっていかなければいけないという気持ちでおります。

○寺田座長 ありがとうございます。

奥山委員、お願いします。

○奥山委員 今の休眠預金の話は、このままでは北海道に休眠預金が入ってきにくいのです。

○草野委員 そうなのですか。

○奥山委員 そうなのです。今、そのことについて頑張っている仲間がいるのですけれども、どうなるかわかりません。休眠預金が回ってくるのだと思っている方がいたら、それは間違いですと言わざるを得ない状況です。

私は、今年度、東京で勉強のグループをつくったということもあるので、2カ月に1回ぐらい行っています。当然、旅費をかけて行っているのですが、いろいろなところに顔を出そうと思って、自分の団体以外のところにもいろいろと顔を出すようにしています。

そうすると、私は仕事の休みをとって行くので1日中あいているのですが、実は、午後7時以降の時間が一番熱いのです。というのは、誤解をおそれずに言うと、時間があいているから何かしようという人と、時間はないのだけれども、何かやりたいという人の熱量は、絶対に変わってくるのではないかと思っています。

ちょっと悪い言い方をすると、この資料を見ながら、時間の延ばし方が半端だと実はずっと思っていました。夜にやると何がいかというと、本業で市民活動をされている方と、いわゆる営利団体に勤めているのだけれども、市民活動に参加したいという熱意を持っている方がつながりやすいということがあります。そうすると、その考え方に広がりが出てきたり、ネットワークがどんどん広がっていくという効果もあるので、まだ今は子ども向けとかシニア向けのものが多いので、そこまで時間を広げることを考えなくてもいいのかもしれないですけれども、30代、40代、50代ぐらいのほとんどの人を巻き込んでいこうと思うのであれば、7時以降の時間をどう有効に活用するか、あそこは7時以降により混み合うみたいな状況が生まれてくると、もっと活動の幅が広がる団体がふえるのかなとこの1年感じておりました。

○寺田座長 ありがとうございます。

それでは、中田委員、お願いします。

○中田委員 私からは1点だけ申し上げます。「NPOインターンシップ」は、結構おもしろい活動だと興味を持っています。大学生向けの30歳以下に主導者となるような研修をして、実際にいろいろな団体のところに行って一緒に研修を行うという内容です。隼田委員は大学にいるのでお詳しいと思うのですが、こういうことに興味のある学部を幾つか紹介しておきたいと思います。

私自身は、滅多にない都市工学科というまちづくりを専門に扱う学科の出身です。札幌で言いますと、例えば、北大、北海学園大、北海道科学大などの建築学科などです。そういうまちづくり分野の住民参加型、住民主導などのような言葉がつく科があります。そういうところに声をかけて、

2単位とか、2.5単位とかの履修単位を取得できるようにすれば参加者が増えると思います。

もう一つは、文学部に社会学科というのがありますが、ここは、社会調査と申しましていろいろな統計や利用して、分析とか集計をする学科です。文学部ですが、かなり理系に近い学科です。

そういうところで、今、私が思っているのはそのような学科の学生、教官に声をかけてはいかがかと思っています。

○寺田座長 ありがとうございます。

それでは、佐藤課長、お願いします。

○佐藤委員 このように皆さんとお会いできるのは今日が最後ということで、2年間、本当にどうもありがとうございました。

私も今年で2年目ですけれども、初めてこちらにお邪魔しましたときには、全くわからず、NP〇って何？という状況で、皆さんにいろいろなお話を聞かせていただき、それぞれ活動なさっている中での課題や今後のことを教えていただきまして、本当にありがとうございました。

例えば、市民活動促進担当課は所轄庁ですからNP〇の認証をしているのですが、数値的に考えると、きっと右肩上がりだよねということで、目標数値がかなり高くなっているのですが、ここ数年はもう横ばいとなっていて、でも、それは全国的な傾向なのです。

では、どうして増えなくなってしまったのかというと、一般社団法人は簡単につくれて、誰にも指図されず、事業報告を出せと言われずにやれるから、法人格を持つだけだったらその方がいいのかなとか、課内では言っていたのですけれども、先ほど草野委員がおっしゃったように、社会的な課題がどういうふうになっているか、うちだけがそうなのか、全道的な傾向がどうなのかという視点もすごく大事なのだと、本当に勉強させていただいた2年間だと思います。

これからもお世話になりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○寺田座長 ありがとうございます。

それでは、皆さん方から一通りいろいろな意見をいただき、また、佐藤課長からもお礼の言葉をいただきまして、ありがとうございました。

拙い司会でしたが、2年間、本当にありがとうございました。

今後とも、いろいろな情報交換をさせていただければありがたいと思っています。

ということで、ちょうど時間になりましたので、マイクをお返ししたいと思います。

本日は、ありがとうございました。

#### 4. 閉 会

○事務局（小平指導員） 以上をもちまして、平成29年度第2回札幌市市民活動サポートセンター運営協議会を終了いたします。

今後も、市民活動サポートセンターの運営事業にご協力とご理解をいただけますと幸いです。

皆様、本日はありがとうございました。

以 上